

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308567		
法人名	株式会社 日本ケアシステム		
事業所名	グループホーム しらさぎ苑		
所在地	秋田県潟上市飯田川飯塚字塞ノ神143番地3		
自己評価作成日	平成24年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成24年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度は職員に対して、認知症という病気をみるのではなく認知症の人をみるようにと徹底させ、それなりの成果がありました。今年度は昨年に加え、認知症の方が安心して生活できるように職員には予測介護で事故防止、ひやりはっと防止を徹底しております。その成果もあり、事故報告とひやりはっとがかなり減少しております。又、医療法人 正和会は内科、整形外科、歯科、眼科と高齢者が必要とされる医療が揃っておりバックアップ体制も整っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体法人が医療法人であり、内科、整形外科、歯科、眼科と多くの診療科が整い、状態変化や緊急時等における対応が可能で、利用する側にとって安心できる体制です。地域との繋がりも深く、町内会員となり総会や懇親会等に参加して情報交換を行っているほか、地区小学校のスクールガードも担当しています。隣近所からは野菜等を頂いたり日常的な付き合いも持たれ、地域に根ざした事業所となっています。ケアの方針も、管理者の熱意のもとで、「職員間では上下関係なく何でも言い合える環境」を整え、利用者が安心して、その人らしく生活できるよう、全てを受け入れて対応に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム しらさぎ苑	基本理念をホール、事務所にかがけ誰にでも分かるように共有しております。又、絵に描いたもちにならないように出来ることから理念作成しております。	「住み慣れた環境でその人らしく、楽しく、安心できる生活を提供します」を理念とし、ホールや事務室に掲示、朝礼時には管理者が無作為に職員から話してもらい、共有を深め、実践に繋がられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会行事、総会、地元小学校のスクールガード等、地域住民の一員として活動しております。	町内会員として、総会や懇親会等に参加して情報交換を図っているほか、地区小学校のスクールガードの担当や小学校行事へも参加して交流を持たれています。地域の方も気軽に事業所へ立ち寄り、隣近所から野菜をいただいたり等日常的な付き合いも多い事業所です。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町内会の総会に参加し、地域住民の皆様には認知症の理解や福祉施設利用するにあたり相談やアドバイスの件も行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では町内会長、民生委員、御家族様、入居者様も参加され毎月の課題、改善状況を話しあっております。	町内会長、民生委員、利用者や家族、職員が参加され、定例報告や課題、改善状況が話し合われております。事故報告やヒヤリハット報告も行われており、忌憚のない意見交換でサービスの質の向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課に出向き、市内の高齢者状況や介護保険施設状況、アドバイス等を頂き関係を構築しております。	運営推進会議への市職員参加がないため、会議内容や毎月の報告書類等を提出する際に、地域の高齢者状況や施設の空き状況、助言等をいただきながら連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は絶対してはいけないこと、職員は正しく理解し取り組んでおります。	「絶対に行わないこと」を事業所の基本姿勢とし、職員も身体拘束の弊害を理解され、カンファレンス等において行動障害等の原因を考え、拘束をしないケアの実践に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症を正しく理解し、行動障害の意味、何故を理解し接しております。普段からしっかりと観察し虐待を未然に防止しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度まで成年後見制度を活用されている入居者様が実際おりました、職員には自然と理解して頂く事が出来ました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時、あるいは利用契約前の段階から文章で分かりやすく説明し、理解を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時等とにかくコミュニケーションをとり、入居者様、御家族様の思いを頂いております。	利用者からは、日常的な会話の中から意見を汲み取り、家族からは、運営推進会議の際にストレートに意見を言ってもらえるような雰囲気作りに努め、家族は皆さん職員の名前を覚えており、信頼関係が構築され、実際にいただいた意見を運営に反映されております。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	言いたい事が言い合える施設なので、その場その場で意見や提案をありがたく頂き反映しております。	職員間で言い合える雰囲気ができており、管理者は日常的に職員の意見を聞き、職員の勤務形態等の変更によって、業務の改善が行われる等に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場で共に過ごすことで環境を整備し職員の気持ちをくんでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加させ、良いものを現場に持ち帰りOJTしております。又、同じ職員ばかり研修に参加しないように気をつけております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回ですが、同業者との会に参加し協力関係を構築しております。それにより、互いに良い刺激を感じ施設におとしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される方や、御家族様から情報を得て、一番良い体制で安心して生活出来る様に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からバックグラウンドアセスメント情報を頂き、御家族様の要望や不安等にも対し信頼関係を築いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に壁は無く、家族のような生活を営んでおります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会だけでなく、苑便りや中には携帯電話を使用している入居者様もおり、今迄以上の関係を築いている方もおります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様はもちろん、ご兄弟や知人等も遠慮なく面会に来られる、来やすい体制を整えております。又、外出時に自宅に寄ったりする等、必ずどこかで繋がっております。	親戚や知人等の面会が多く、継続的な交流が保たれています。また、家にいた頃に利用していた店や掛かっていた病院など馴染みの場との関係継続も支援されています。遠方に家族が居る利用者へは、家族の了解を得て、携帯電話を持ってもらい、いつでも声が聞けるような配慮にも努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の認知症状態を普段から確実に把握し、上手に場を和ませ利用者様のかかわりを多くしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、数年経過されている御家族様と苑とでお付き合いがあり、野菜や山菜、旬の物を差し入れてもらっております。又、退居ごの経過等も手紙や挨拶程度のはがきで繋がっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間にとらわれずに家庭と同じく過ごされております。又、困難な場合であってもその人らしさを大切にしております。	日々のかかわりの中で声掛けを行い、思いや意向の把握に努めています。また、困難な場合においても、日々の生活の行動や表情から汲み取ったり家族から情報を得ながら、本人本位に検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様にご協力をいただき、これまでの貴重な情報を提供していただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々の生活の中で観察力を身につけ、入居者様の少しの変化も見逃さず、毎日の状態を把握しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で、職員が気付いた事や、工夫した事を御家族様や関係者と情報を共有し、ご本人に合った無理の無いケアプランを作成しております。	毎月のカンファレンスで担当者からの説明が行われ、職員全員で意見交換やモニタリングが行われています。また、本人や家族からも日々のかかわりの中で思いや意見を聞き、関係者で情報の共有を図りながら、現状に即した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のノートに毎日の経過を記録し、日々の変化を見逃さないように職員間で情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当苑は地域との関わりが深く、町内会長、民生委員が日頃から来苑され協力関係を築きあげ日々バックアップ体制が整っております。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人は高齢者が必要とされる医療が整っており、万が一の時でも24時間体制で医療を受けられる体制が整っております。その為、御家族様からも安心の声をいただいております。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、受診時には付き添い、家族へは適宜報告が行われています。また、経営母体法人が医療法人で、複数の診療科があり、夜間や緊急時にも支援やバックアップ体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護2名で来苑され入居者様の状態を把握していただいております。又、来苑日以外の日でも入居者様に状態変化があれば状態報告をしアドバイスをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	問30でもありましたが、法人内に入院設備が整っており対外の職員が顔なじみです。その為、連携が上手にとられ万が一入院になっても問題ありません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設だけでなく病院のドクター、看護師、訪問看護等、一つのチームになり支援に取り組んでおります。又、御家族様にはしっかりと説明し理解をいただいております。	事業所指針のもと、本人や家族の意向を踏まえて、医師、訪問看護、職員が連携をとり、安心して納得が得られるよう説明し、理解を得て支援に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の状態を普段からしっかりと把握し、急変や事故を未然に防いでおります。又、職員間で応急処置や初期対応の体制を整えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、毎月、警察代表と会議を開催し、災害対策を万全に備えております。又、当苑は地域からも絶大な支援体制が整っており安心して生活ができております。	年2回の避難訓練を、地域の方々からの協力を得て行っているほか、今年から警察署の協力のもと、津波想定訓練で、実際に避難場所まで行く訓練も行われています。災害時には、町内会の備蓄倉庫に事業所分の食料や燃料が備蓄されており、地域からの支援体制も整っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは入居者皆様の状態や家族関係、一人ひとりのこれまでの経過を把握しており、確実に言葉を選び日々接しております。又、個人情報についても心得ております。	自由と人格を尊重して、これまで生活してきた経過を把握しながら、目立たず、さりげなく、穏やかに対応配慮されており、誇りやプライバシーを損ねる言葉掛けや対応は見られませんでした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりを多く持ち、自然な流れの中から相手の気持ちを引き出したり、思いを形に表せるように働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるも、形にとらわれず、いかに利用者の希望やペースで1日が流れていくかを大事にして支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	その日着る服を一緒に選んだり、その人らしく、喜ばれる身だしなみ、おしゃれができるよう支援しております。又、自分で判断が出来ない方には職員のセンスできめております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや能力を見極めたうえで、毎食の準備や食器拭きを積極的に行ってもらっております。今では完全に日課になっております。	好みのメニューを聞き、買い物から下ごしらえ、準備、後片づけ等の一連の流れが職員と共に行われており、会話しながら楽しんで食事できるような雰囲気作りを大切にしています。弁当を持って、全員で外食レクリエーションに行く等の工夫もされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	独自の書式を用いて、食事、水分摂取量を把握。献立は、関連施設の栄養士が作成したものをベースにして栄養のバランスに気を付けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔洗浄、ポリデント使用、残存機能維持の為に自分で歯磨き、職員による仕上げまで徹底しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを職員は把握しており徹底してトイレ誘導をしています。残存機能の維持にも繋がっております。	日常生活での様子を観察して、排泄チェック表にて一人ひとりのパターンを把握し、トイレでの排泄を大切にされ、自立に向けた支援が行われています。排泄用品においても、本人に合わせた検討や使用がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、乳製品、水分補給をこまめにし各入居者様の排便間隔を把握し便秘対策をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日、その日の体調と相談し、決して無理はせずご本人の希望に添った入浴を施行しております。	入浴したい日、時間帯を本人の希望に合わせて、無理なく支援しています。週2回以上の入浴のほか、暑い時期は随時シャワーを利用する等の対応も行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家庭と同じで、休みたい時は休み、行動したい時は行動していただき、形にとらわれず自由に生活をしていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の既往歴や病気の状態を職員は把握しており、内服されている薬の効果や役目をしっかりと理解しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの習慣や趣味を日常の生活に自然と取り入れております。又、苑内での軽作業も日課になっており、気分転換になっております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	御家族と一緒に整形リハビリに行って頑張ったり、御家族と一緒に買い物に出掛けたり、病院受診の帰りに自宅に顔を出したりと、施設で暮らしていながらもしっかりと繋がっております。	一人ひとりの生活習慣や希望に合わせて、散歩や敷地内で食事を食べたり、病院受診の際に買い物や自宅に立ち寄ってくる等の支援が行われています。職員が市役所等へ行ったりする際にも、声を掛けて一緒に外出する等の工夫で、気分転換やストレスの発散や軽減に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当苑では個々に所持金があり、外出時に持参しております。苑内ではお金の使い道はありませんが、個人的に手元に置いておきたい方も居る為、御家族に了解を得ております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方や苑の電話で御家族、兄弟、知人に電話のやり取りをし、外部とのコミュニケーションを密にとっております。便利なアイテムとして利用しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ごくごく普通な家庭と同じ、あまり飾らず、落ち着いて生活できる空間を意識しております。又、季節感を出す為に、さりげない演出も心掛けております。	家庭的雰囲気大切にされ、絵画や写真、手作りの作品等が飾られており、落ち着いて生活できる空間が感じられました。天井が高く、窓からは優しい光が差し込み、臭いや音、温度など五感刺激への配慮で、穏やかに、居心地よく過ごせる工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	1人ひとりがリラックスできる場所を工夫して提供させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人が家庭で使用されていた品や好みの物を持参していただき、自宅で暮らしていた時と同じ状態で生活していただいております。	自宅で暮らしていた時からの使い慣れた物や愛着のある物が持ち込まれ、安心して居心地よく過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員には予測介護を常々言い聞かせ、事故防止に取り組んでおります。その為、利用者様は安全で快適な生活を送っております。		